

# ROAD ロード

## オリンピック

- 男子ロードレース ..... 7/24<sup>土</sup>
- 女子ロードレース ..... 7/25<sup>日</sup>
- 男女ロード個人タイムトライアル ..... 7/28<sup>火</sup>

## パラリンピック

- 男女ロード個人タイムトライアル ..... 8/31<sup>火</sup>
- 男子ロードレース ..... 9/1<sup>水</sup>~3<sup>金</sup>
- 混合ロードチームリレー ..... 9/2<sup>木</sup>

2021年7月24日、史上初のオリンピック静岡県開催が男子ロードレースで幕開けした。有観客開催となったゴール会場「富士スピードウェイ」を訪れた観戦客は約4,500人。間近に見る世界最高峰のレースに感動もひとしおだった。パラリンピックのロードレースは8月31日スタート。障がいの違いにより、Cクラス(二輪自転車)、Tクラス(トライシクル)、Hクラス(ハンドサイクル)、Bクラス(タンデム自転車)に分かれて行われた。パラリンピックは無観客開催となったが、選手たちの全身全霊を捧げた走りは、多くの県民に感動を与えた。



## 東京から富士山を目指す、過酷なレース 世界各国の代表選手が魅せた真剣勝負

東京・武蔵野の森公園をスタートし、1都3県を駆け抜け、富士スピードウェイを目指すロードレース。その距離は男子244km、女子147km。男子ロードレースの獲得標高(登った高さの総合計)は、富士山を遥かに超える約4,865m。その約53%を静岡県内が占めた。この過酷なコースを完走したのは128人中85人。日本の新城幸也選手は、レース中盤まで先頭集団に食らいつき35位、増田成幸選手は多くの日本人の声援に応えながら84位でゴールした。女子ロードレースは、湿度の高い猛暑の中、激しいトップ争いが繰り広げられ、「世界最強チーム」のオランダ勢を抑え、オーストリアのアナ・キーゼンホファー選手が金メダル。日本の與那嶺恵理選手は、残り4kmまでメイン集団につく粘りを見せ21位。金子広美選手は、「ヒルクライムの女王」らしい登り坂での強豪選手に負けない走りを見せ43位でフィニッシュ。與那嶺選手は個人タイムトライアルにも出場し、22位でゴールした。

3日間の富士スピードウェイでの観戦客数は約9,400人。県内には、最高標高1,451m地点に向けて登り続ける富士山麓コース、最高時速100km近くで一気になる富士山スカイライン、小山町のマリーゴールドの花畑、最大勾配20%の難所と言われる明神峠・三国峠など、見どころが満載だった。今回、沿道での観戦は自粛となったが、登り坂での激しい競り合いや公道を猛スピードで駆け抜ける迫力はロードレース最大の魅力。将来、再びこの地で世界大会が行われることを願う。



## 杉浦選手が日本人最年長の金メダル 同大会2冠の快挙

パラリンピック自転車ロード種目の初日、女子ロード個人タイムトライアルC1-3は、富士スピードウェイを舞台に、8kmを2周するコースで行われた。スタートから全力で出走した掛川市出身の杉浦佳子選手は、平均時速37.024kmの快走で25分55秒76のタイムを叩きだし優勝。パラリンピック自転車競技における日本人女子初、パラリンピック日本人選手史上最年長の金メダリストが誕生した。藤井美穂選手は15位であった。男子C2クラスの川本翔大選手は9位でゴール。C3クラスに登場した3大会連続メダル獲得の藤田征樹選手は7位入賞を果たした。13.2kmのコースを6周する、9月2日開催の男子ロードレースC1-3は、激しい雨と視界を遮る濃霧に見舞われた。藤田選手は残り750mまで銅メダル争いを演じ6位入賞、川本選手は28位でレースを終えた。タンデム自転車のBクラス、ハンドサイクルのHクラスの選手たちも、息をするのも苦しいほどの激しい雨の中、熾烈なメダル争いを繰り広げた。

競技最終日に行われた女子ロードレースC1-3はコースを3周、計39.6kmで競われた。杉浦選手は先頭集団を形成し、3周目の登り坂でアタック。その強い脚力は、他選手に比べ突出していた。後続に16秒の差をつけゴールし、今大会2冠を手にした。藤井選手も最後まで力の入った走りを見せ、15位でゴールした。障がいを超え、目標に向かって疾走したパラリンピックの選手たち。次はぜひ、観戦客の声援に包まれる中で熱戦を期待したい。



新城幸也選手



増田成幸選手



與那嶺恵理選手



金子広美選手



杉浦佳子選手



藤井美穂選手



藤田征樹選手



川本翔大選手





# MTB マウンテンバイク

## オリンピック

マウンテンバイク男子クロスカンтриー …… 7/26㊦  
マウンテンバイク女子クロスカンтриー …… 7/27㊦

オリンピックに向けた改修工事を経て、日本サイクルスポーツセンター内に設けられた伊豆MTBコース。「コンパクトな激坂と岩場」を特徴とする世界トップレベルの難コースは、高い自転車性能と卓越した選手のパフォーマンスを最大限に引き出し、会場を訪れた観戦客はもちろん、世界中の多くのマウンテンバイクファンを魅了した。

## 最高のパフォーマンスを引き出す世界トップレベルの難コース

1周約4km、高低差約150mのコースには、走行に高度な技術を必要とする難所「テクニカル・フィーチャー」が8カ所。伊豆の観光名所や日本文化にちなんだ名称をつけた。周囲の豊かな自然環境を最大限生かし、野生の植物や花を育て、日本の伝統文化と伊豆の景観を意識し、美しくデザインされたコースの途中には、富士山を望めるビューポイントもある。コース沿いには観戦エリアが設けられ、観戦客は迫力のあるレースを間近に見ることができ、緑に囲まれた自然あふれるコースを移



動しながら、様々な難所を克服する選手を生で観て、レース全体を楽しめるのも本コースの魅力である。観戦客からは「迫力に圧倒された。岩を下るジャンプシーンが格好良かった。前半は桜吹雪（サクラドロップ）でジャンプを観戦、後半は感動的なゴールを見届けられて最高」などの声があがった。静岡県は、この競技会場を活用したマウンテンバイクの国際大会「ジャパンMTBカップ」の創設、アスリートのみならず、様々なレベルのマウンテンバイクライダーが楽しめるコースの整備・活用など、レガシー継承につながる取組を進めている。



### 7 伊豆半島

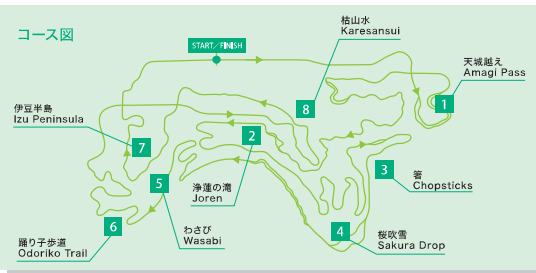
伊豆半島の海岸線を青々とした芝生でデザインした比較的平坦なコース。入口と出口には日本らしい朱色の橋。

### 8 枯山水

木々の間や岩をすり抜けながら駆け下りる。繊細な判断力と騎乗力、高い技術に伴うパワーが試されるエリア。

### 1 天城越え

スタート直後の急な登り坂を越え、砂で滑りやすい激坂と岩場の下りを組み合わせたS字カーブ。



### 6 踊り子歩道

選手たちが軽快に切返しながら疾走する、自転車1台通るのが精一杯な「シングルトラック」。

### 3 箸

二本の大きな丸太で箸を表現した遊び心溢れるセクション。選手のダイナミックなジャンプが見られる。

### 5 わさび

最も高低差があり、選手にとって「辛い」登り坂。伊豆名産の「辛い」わさびにちなんで名付けられた。

### 2 浄蓮の滝

木々の間に縦に並んで滝のように見える大きな岩場を落ちるように下る、迫力あるライディングが見もの。

### 4 桜吹雪（サクラドロップ）

選手が落差1.5mの切り立つ崖から桜のように舞い降りる、コース最大の見どころ。天気の良い日には背景に富士山が写る最高のフォトスポット。



## 幾多の試練を乗り越える選手たち。世界最高峰のレースを間近に

2021年7月26日、マウンテンバイク初日の男子クロスカンтриー。会場は全国各地から訪れた多くのマウンテンバイクファンで賑わい、コロナ禍に沈む空気を振り払うかのような、華やかな雰囲気包まれた。レースはスタートから波乱の展開に。優勝候補の1人、オランダのマチュー・ファンデルプール選手が「サクラドロップ」で激しく転倒し、その後リタイア。これまでにない難コースとして世界に知らしめるものとなった。レース中盤はスイス勢が先頭を固めるも、全7周の4周目にイギリスのトーマス・ビドコック選手が前に出る。その後もペースを落とさず走り切ったビドコック選手が1位でフィニッシュ。ゴール付近を埋め尽くした観戦客の歓声と拍手が一同に沸きあがる。「これぞまさにオリンピック」という光景だった。日本の山本幸平選手は、後方から追い上げを目指し、引退レースで29位完走を果たした。翌日の女子クロスカンтриーは、雨でコースが濡れ、更に難易度が増す中で行われた。先頭を走ったのはスイス勢。その内の1人、ヨランダ・ネフ選手は2019年に同コースで行われたテストイベントの優勝者だ。肺の負傷から1年をかけて復帰し、本大会の6週間前には手首骨折という試練を乗り越えたネフ選手が、高い走行技術で他を圧倒し、ゴールまで独走し続け金メダルを獲得。表彰台はスイス勢が独占した。日本の今井美穂選手は、当日試走中の転倒で胸を痛め、本戦ではバンクと転倒に見舞われ、残り3周でレースを終えたが、自国開催のオリンピックを有観客の中で走れたことに「ただただ幸せな時間」と語った。世界最高峰のレースを、生で間近に見て、興奮し、感動した観戦客。この地がマウンテンバイクの聖地になることを予感させる2日間であった。





# TRACK トラック

**オリンピック** 8/24~8・㊟

男女チームスプリント・男女チームパーシュート・  
男女スプリント・男女ケイリン・男女マディソン・  
男女オムニウム

**パラリンピック** 8/25㊟~28㊟

男女パーシュート・男女タイムトライアル・  
混合チームスプリント

## 最大斜度45度の板張りコース 世界新記録続出の高速レース

国際自転車競技連合(UCI)規格を満たした屋内型板張り250mトラックを有する「伊豆ベロドローム」。シベリア松の木材を巧みに組み合わせ最大傾斜45度の走路は、トラックデザインの第一人者、ドイツのラルフ・シューマン氏が設計した。ペダルが軽くなり、スピードが出やすくなるように作られたコースは、選手たちからも「世界に誇れる走路」と好評だった。大会開催時収容人数は、3,600人。視界を遮る柱がなく、客席から見渡す空間の広がりも圧巻である。有観客開催が実現したオリンピック競技の7日間に訪れた観戦客は、その雰囲気を楽しんだ。

トラック・レース初日の2021年8月2日。女子チームパーシュート(4人1組)の予選でドイツが世界記録を4秒近く上回るタイムを出すと、続く女子チームスプリント(2人1組)の1回戦でも中国が世界記録を更新。その後も、各種目で世界記録が次々と塗り替えられた。最大傾斜45度の板張りコースが生む高速レースに観戦客も興奮。WR(World Record)の表示が出ると、会場は一気に盛り上がった。

国内初の木製走路として2011年に誕生した「伊豆ベロドローム」を舞台に行われたトラック・レース。世界トップレベルの選手たちが実感した「世界に誇れる走路」は、多くの記録と記憶に残るドラマを生み、自転車トラック競技のスピード感や躍動感、選手間の駆け引きを肌で感じた観戦客は、その迫力に見惚れた。

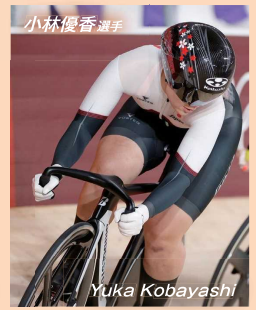
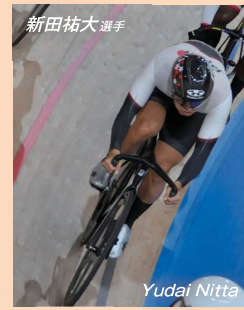
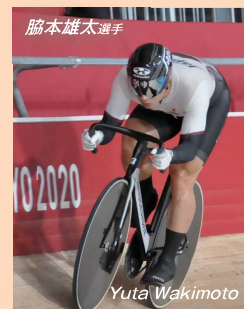


## 梶原選手が競技最終日に銀メダル獲得! 日本選手の活躍に沸いた「伊豆ベロドローム」

会場は日本人選手の活躍にも沸いた。男子スプリント予選で脇本雄太選手が日本新記録を出し9位と健闘。新田祐大選手は気合のこもった走りを見せるもまさかの予選敗退となった。女子スプリントでは小林優香選手が予選で日本新記録を樹立し14位。ケイリンでは準々決勝まで進出した。男子ケイリンは、1回戦で脇本選手と新田選手がともに会心の走りを見せ1着でゴール。準々決勝で敗れたものの、脇本選手は敗者復活戦から見事7位入賞を勝ち取った。自転車競技の十種競技と言われる男子オムニウムには、アジア選手権3連覇中の橋本英也選手が出場。スクラッチでは8位となったが、総合15位で競技を終えた。オリンピック初開催となった女子マディソン出場の梶原悠未選手・中村妃智選手ペアは13位だった。そして最も注目を集めたのが、8月8日に行われた女子オムニウム。世界選手権チャンピオンの梶原選手にメダル獲得の期待がかかり、伊豆地域で練習を積む同選手を支えてきた人たちの応援にも力が入る。2種目を終えた時点で3位につけた梶原選手は、次の種目のエリミネーションで最後の2人まで残り、2位でフィニッシュ。総合2位に浮上すると、最後のポイントレース途中で接触から落車するも、総合ポイントで2位の座を守り切り、銀メダルを獲得。競技最終日に有終の美で飾った。会場は、自転車競技日本人女子初となるメダリストの誕生に拍手が鳴り止まなかった。

8月25日に始まったパラリンピックは無観客開催となったが、日本人選手の入賞が相次いだ。男子パーシュートC2では、川本翔大選手が予選で世界記録を更新し、その後記録は塗り替えられるも3位決定戦に進出し4位入賞。C3の藤田征樹選手も8位入賞を果たした。川本選手はタイムトライアルC1-3でも日本記録を更新し6位入賞。藤田選手は15位だった。女子パーシュートC1-3の杉浦佳子選手も日本記録を更新し、5位入賞。藤井美穂選手は15位に終わったものの、タイムトライアルC1-3では見事7位入賞。共に出場し4位だった杉浦選手と喜びを分かち合った。

伊豆ベロドロームは、「世界に誇る高速バンク」であることを改めて全世界に知らしめて、オリンピック7日間、パラリンピック4日間の競技に幕を閉じた。







## 静岡県ゆかりの選手の活躍

東京2020大会で、静岡県ゆかりの選手たちは輝かしい活躍をみせ、県民のみならず、世界中に感動を伝えた。

### 金メダリスト 9人に県民栄誉賞を贈呈

静岡県は、東京2020大会で金メダルを獲得した静岡県出身のオリンピック5選手、パラリンピック4選手の9人に、県民栄誉賞を贈呈した。2021年12月の3日間に渡り静岡県庁内で行われた贈呈式では、

川勝知事から「県民に明るい希望と活力を与えてくれた」という祝いの言葉が贈られ、記念撮影後の会見では、選手たちが県民へ感謝の気持ちを伝えた。

### Olympic オリンピック



**水谷 隼選手** (磐田市出身)  
卓球 混合ダブルス 金メダル  
「地元からの声援が力になりました。本当にありがとうございます。これからも卓球に携わりスポーツ界全体を盛り上げていきたいと思っております」



**伊藤 美誠選手** (磐田市出身)  
卓球 混合ダブルス 金メダル  
「小さい頃から、大会で優勝する度にこちら(県庁)に伺い、成長を見守っていただきました。金メダルをお見せでき大変嬉しいです。これからも試合を楽しみながら、勝って、勝ちまくります」



**渥美 万奈選手** (浜松市出身)  
ソフトボール 金メダル  
「静岡県はソフトボールがとても盛んな地域なので、選手たちが、これから世界中でソフトボールを盛り上げる手助けをしていけたらと思います」



**山崎 優紀選手** (掛川市出身)  
ソフトボール 金メダル  
「ソフトボールは1人ではできません。みんなで力を合わせて獲得できた金メダルです。私たちを見て、オリンピック選手になりたい、ソフトボールをやってみたくて思ってもらえたら嬉しいです」



**岩崎 優選手** (静岡市出身)  
野球 金メダル  
「活躍する姿を見たいと思っていたので、いい結果を残すことができ良かったです。今回の表彰に恥じぬよう、これからも精進していきます」

### Paralympic パラリンピック



**杉浦 佳子選手** (掛川市出身)  
自転車 女子  
ロード個人タイムトライアル(C1-3クラス) 金メダル  
ロードレース(C1-3クラス) 金メダル  
「静岡県の多くのご支援にやっと思返しができました。静岡には日本に3つしかないロードコースがあります。そこから新たなオリンピック・パラリンピアンを願っています」



**佐藤 友祈選手** (藤枝市出身)  
陸上 男子  
400m車いす(T52クラス) 金メダル  
1500m車いす(T52クラス) 金メダル  
「県民の皆さまからの、テレビなどを通じての応援やメッセージがとても力になりました。3年後のパリでも表彰してもらえるように、これからも精進していきたいと思っております」



**鈴木 孝幸選手** (浜松市出身)  
水泳 男子  
100m自由形(S4クラス) 金メダル  
「静岡からのたくさんの応援があり、13年ぶりに金メダルを獲得できました。選手たちの活躍を見て、障がいを持つ子どもが積極的にスポーツに取り組んでくれたら嬉しいです」



**杉村 英孝選手** (伊東市出身)  
ボッチャ 混合個人(BC2クラス) 金メダル  
「県の支援、県民からの声援が後押しになり、金メダルを獲得できました。今大会は、多くの方にボッチャを知ってもらい機会になりました。体験を通じボッチャの魅力をもっと広めていきたいです」



### 知事特別表彰の贈呈

東京2020大会で入賞を果たした、静岡県ゆかりのオリンピック17選手、パラリンピック9選手の26選手には、知事特別表彰を贈呈した。知事が選手たちの活躍を称え、選手たちは今後の更なる活躍を誓った。

### Olympic オリンピック

- 梶原 悠未選手 (伊豆市・伊豆の国市拠点) 自転車女子トラック オムニウム 銀メダル
- 平野 美宇選手 (沼津市出身) 卓球女子 団体 銀メダル
- 池田 向希選手 (浜松市出身) 陸上男子 競歩20km 銀メダル
- 山西 利和選手 (静岡市出身) 陸上男子 競歩20km 銅メダル
- 旗手 怜央選手 (静岡学園高校出身) サッカー男子 4位
- 山内 梓選手 (浜松市出身) アーチェリー女子 団体 5位
- 芦川 うらら選手 (富士市出身) 体操女子 平均台 6位
- 川野 将虎選手 (小山町出身) 陸上男子 競歩50km 6位
- 脇本 雄太選手 (三島市拠点) 自転車男子トラック ケイリン 7位
- 大池 水杜選手 (島田市出身) 自転車女子BMX フリースタイル・パーク 7位
- 藤井 直伸選手 (三島市拠点) バレーボール男子 7位
- 李 博選手 (三島市拠点) バレーボール男子 7位
- 佐倉 尚人選手 (御殿場西高校出身) 空手男子 組手67kg級 7位
- 岡田 奎樹選手 (裾野市拠点) セーリング男子 470級 7位
- 杉田 妃和選手 (藤枝順心高校出身) サッカー女子 8位
- 三宅 史織選手 (御殿場市立富士岡中学校出身) サッカー女子 8位
- 遠藤 純選手 (御殿場市立富士岡中学校出身) サッカー女子 8位



東京2020大会に出場した、その他の県ゆかりの選手たち

### Olympic オリンピック

- 高橋 航太郎選手 (静岡市出身) 水泳(競泳)男子4×200mリレー/足立 聖弥選手 (沼津市拠点) 水泳(水球)男子/高田 充選手 (沼津市拠点) 水泳(水球)男子/新澤 由貴選手 (沼津市拠点) 水泳(水球)女子/伊藤 達彦選手 (浜松市出身) 陸上男子 10000m/飯塚 翔太選手 (御前崎市出身) 陸上男子 200m/橋本 英也選手 (三島市拠点) 自転車男子トラック オムニウム/中村 妃智選手 (伊豆市拠点) 自転車女子トラック マディソン/新田 祐大選手 (伊豆市拠点) 自転車男子トラック ケイリン・スプリント/小林 優香選手 (伊豆市拠点) 自転車女子トラック ケイリン・スプリント/林 伸伍選手 (御殿場市拠点) 馬術 馬場馬術個人・団体/富澤 慎選手 (沼津市拠点) セーリング男子 RS:X級/高橋 稜(レオ)選手 (沼津市出身) セーリング男子 49er級/青木 勇貴斗選手 (静岡市出身) スケートボード男子 ストリート

### Paralympic パラリンピック

- 高木 裕太選手 (島田樟誠高校出身) カヌー男子 カヤックシングル (KL1クラス)/稲葉 将選手 (静岡市拠点) 馬術 混合個人・団体 (グレードIIIクラス)



### Paralympic パラリンピック

- 藤本 怜央選手 (島田市出身) 車いすバスケットボール男子 銀メダル
- 若山 英史選手 (沼津市出身) 車いすラグビー混合 銅メダル
- 川本 翔大選手 (伊豆の国市拠点) 自転車男子トラック  
3000mパーシュート (C2クラス) 4位  
1000mタイムトライアル (C1-3クラス) 6位
- 山本 篤選手 (掛川市出身) 陸上男子 走り幅跳び (T63クラス) 4位
- 田中 章仁選手 (静岡市出身) 5人制サッカー男子 5位
- 藤井 美穂選手 (伊豆の国市拠点) 自転車女子トラック  
500mタイムトライアル (C1-3クラス) 7位
- 芹澤 美希香選手 (沼津市出身) 水泳女子 100m平泳ぎ (SB14クラス) 7位
- 土屋 美奈子選手 (伊豆市出身) 柔道女子 70kg超級 7位
- 中野 琢也選手 (浜松市出身) シッティングバレーボール男子 8位



## 大会開催に向け、 地域一体で盛り上がる

### 2017年(平成29年)

7月30日  
みんなのTokyo 2020 3 Years to Go! (3年前イベント)

伊豆ベロドロームを会場に、自転車競技に特化した大型イベントを開催



7月30日～9月30日  
フラッグツアー

伊豆ベロドロームを出発し、約2カ月間で県内35市町を巡回しフラッグを展示

### 2018年(平成30年)

5月25日～26日  
ツアー・オブ・ジャパン(TOJ)

国際レースの県内ステージ(富士山・伊豆)にて観戦動員企画を実施



7月6日～8日  
ジャパン・トラック・カップ2018(JTC)

国内外のトップ選手が競う大会の観戦動員。シャトルバスの運行やイヤホンガイドによる競技解説などを実施



7月22日  
自転車競技開催2年前イベント

7/22～8/7を2年前イベント期間と位置づけ、様々なイベントを実施。そのキックオフイベントを伊豆ベロドロームで開催



8月26日  
パラリンピック2年前イベント

自転車競技のパラリンピアンへのトークショーやパラサイクリング専用自転車の体験を実施



東京2020大会自転車競技の伊豆開催決定時から、主に県と伊豆市で取り組んできた機運醸成事業は、ロードレースコースが富士山南麓に決定したことを受け、伊豆半島・東部地域全体に拡大。県と市町が一体となることで、静岡県開催への機運は徐々に高まっていった。会場周辺地域をはじめ県全域で実施された様々な機運醸成事業の取組を振り返る。

9月6日  
パラリンピック開催2年前決意式

県庁に8名のパラアスリートを招き、地元高校生や県民200名が選手を激励



### 2019年(平成31年/令和元年)

3月8日～5月6日  
伊豆箱根鉄道駿豆線オリパラ電車「500 Days to go」

東京2020大会スポンサーのコカ・コーラ社と協働したデザインでラッピング・車内広告を施した電車の運行



3月12日  
オリンピック・パラリンピックに向けた500日前イベント

オリンピック開催500日前を記念し、県庁本館前にてカウントダウンサインを点灯



3月30日～31日  
「東京2020 Let's s55～レッツゴー～with野村ホールディングス」でのPR

東京証券取引所で行われたイベントにて、KNT-CTホールディングスと協働でバーチャル自転車競技体験を実施



7月21日  
オリンピック・パラリンピックに向けた1年前イベント

富士スピードウェイイベント広場で体験会・トークショーを実施



7月21日  
東京2020 READY STEADY TOKYO—自転車競技(ロード)テストイベント

東京2020大会と同じコース設定(御殿場市・裾野市の一部除く)で開催されたテストイベントの観戦動員を実施



7月24日～9月6日  
ラッピングバス(伊豆半島地域)の運行

東海バス(路線バス2台)をラッピングし運行。道の駅「開国下田みなど」にて出発式を実施



8月25日  
パラリンピックに向けた1年前イベント

清水総合運動場体育館にてパラアスリートを招き、車いすラグビー、パラサイクリングなどのパラスポーツ体験を実施

10月6日  
READY STEADY TOKYO—自転車競技(マウンテンバイク)テストイベント

伊豆MTBコースで開催されたテストイベントに、事前応募2,000名を無料招待し観戦動員を実施



### 2020年(令和2年)

2月11日  
オリンピック・パラリンピックに向けた200日前イベント

キラメッセめまづで、トークショー、ポッチャ大会、オリパラ競技体験会等を実施。「2020」人文字アートで大会の成功と選手の活躍を祈念



### 大会延期を経て機運再醸成～新たな出発～

7月23日～9月5日  
サイクリングWEBスタンプラリー第1弾

伊豆半島・東部地域20市町を舞台に、自転車を活用したスタンプラリーを開催



8月8日  
東京2020大会オリンピック競技大会自転車競技(トラック・レース)日本代表内定選手激励会

伊豆ベロドロームにて、森喜朗大会組織委員会会長、橋本聖子オリパラ担当大臣参加のもと、代表内定選手を招いて激励



11月21日  
ふじのくにスポーツカフェVol.1(富士市)

高橋正純氏(Shizu9)・佐野淳哉選手(レバンテフジ静岡)によるトークショーを開催

12月8日～翌年6月8日  
日本代表選手応援プロジェクト

自転車競技日本代表選手への応援メッセージを寄せ書き



### 2021年(令和3年)

2月1日～3月24日  
聖火リレートーチ巡回展示

県内35市町にて聖火リレーで使用するトーチを展示。最終日は県庁でセレモニーを実施



2月23日～3月21日  
サイクリングWEBスタンプラリー第2弾

2月27日  
ふじのくにスポーツカフェVol.2(藤枝市)

高橋正純氏(Shizu9)・春田純選手(パラリンピアン・陸上)によるトークショーを開催

3月20日  
ふじのくにスポーツカフェVol.3(浜松市)

久保ひとみ氏(Shizu9)・鈴木孝幸選手(パラリンピアン・水泳)によるトークショーを開催



4月23日～9月23日  
サイクリングWEBスタンプラリー第3弾

東京2020大会 静岡県開催



# 全県をあげた「事前キャンプ・ホストタウン」の誘致



沼津市/カナダ 市民応援ボードと選手

静岡県は、東京2020大会の開催を絶好の機会ととらえ、2014年「東京オリンピック・パラリンピック推進会議」(2016年3月、「東京オリンピック・パラリンピック事前キャンプ誘致推進協議会」に改称)を設立。事前キャンプの誘致や国際交流の促進等を、県内市町・関係団体と一体となり取り組むことを決めた。各市町の受入施設の整理、誘致に向けた戦略を策定するとともに、誘致ツールの作成、講演会・意見交換会等を通じ、事前キャンプ誘致実現に向け、全県をあげて取り組んだ。また、欧州・北米・オセアニアに海外現地連絡員を設置し、相手国の競技団体等と交渉などを行ったほか、競技団体等の市町視察対応をサポートし、誘致の実現に向け市町と一体となり推進した。静岡県は、東京からのアクセスの良さ、充実したスポーツ施設を有するなど、事前キャンプ地としてのポテンシャルが高いことに加え、早い段階から各市町主体の取組を県が積極的に支援することで、全国トップクラスとなる16市が

14の国・地域との覚書締結等を実現した。また、国は、事前キャンプ受入れ等を契機に、相手国との交流を目指す自治体を「ホストタウン」として登録。本県は18市町が17の国・地域のホストタウンに登録された。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、事前キャンプ受入れには、選手団と住民の安全・安心を確保するため、感染防止策等をまとめた「受入れマニュアル」を作成し、万全の対策を講じる必要があった。受入れ市、県、国が連携・協力し、万全の感染症対策のもと受入体制を整備。その結果、県内12市で11か国の事前キャンプ受入れが実現した。また、4市では、大会後の報告会など事後交流も行われた。共に大きな困難を乗り越えることで、相手国との絆はより深まっていった。東京2020大会を契機につながった世界と静岡。この取組が大会後のレガシーの一翼を担い、国際交流の促進、スポーツへの関心喚起、次世代の育成、「ふじのくに」の世界への発信へとつながり、未来へと引き継がれていく。

## 〈東京2020大会 事前キャンプ覚書締結・ホストタウン登録の状況〉

<b>掛川市</b> 台湾 【事前キャンプ】 オリア・フェリー・オビ・ホテル 【ホストタウン】	<b>菊川市</b> モーリシャス 【ホストタウン】	<b>浜松市</b> ブラジル 【事前キャンプ】 オリオン通商 パラフィッシング 【ホストタウン】	<b>湖西市</b> スペイン 【事前キャンプ】 オリオン	<b>袋井市</b> アイルランド 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>牧之原市</b> 中国 【事前キャンプ】 オリオン 【ホストタウン】	<b>伊豆の国市</b> モンゴル 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>下田市</b> 米国 【事前キャンプ】 オリオン 【ホストタウン】	<b>静岡市</b> 台湾 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>静岡市</b> スペイン 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>静岡市</b> モーリシャス 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>静岡市</b> フランス 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>富士宮市</b> スペイン 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>御殿場市</b> 台湾 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>御殿場市</b> 韓国 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>御殿場市</b> イタリア 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>熱海市</b> フルネイ ダルケラム 【ホストタウン】	<b>小山町</b> 台湾 【ホストタウン】	<b>沼津市</b> カナダ 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>三島市</b> 米国 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>焼津市</b> モンゴル 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>富士市</b> スイス 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>富士市</b> ラトビア 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】	<b>富士市</b> モンゴル 【事前キャンプ】 オリオン通商 【ホストタウン】
---	----------------------------------	--	--	--	---	--	--	--	--	--	--	---	---	---	---	---	------------------------------	---	--	--	---	--	--



富士市/スイス 浴衣を着た選手団 | 沼津市/モンゴル 地元チームとの親善試合 | 牧之原市/アメリカ 地元サーファーと共に | 御殿場市/イタリア 市民報告会



# 世界の盛り上がり 大会開催準備・運営

## 世界最高峰のレースに熱狂した、「東京2020ライブサイト」

東京2020大会の期間中、チケットの有無を問わず、競技会場に行かなくても誰もが競技観戦を楽しむことができる場としてライブサイトが計画された。新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、全国的に当初予定した計画を中止するケースが相次いだ。御殿場市と裾野市の2市2会場では、定員規模や日程を

縮小し、観客を県民もしくは市民に限定するなどの感染症対策を講じた上で開催した。両市は、自転車競技ロードレースが市内を通過するコースになっていることから、ライブサイトではロードレースの中継を行った。「東京2020ライブサイト」の開催が実現したのは全国的に珍しく、自治体関係者の執念が実った開催であった。



### 東京2020ライブサイトin裾野市

- 主催 大会組織委員会、静岡県、裾野市
- 日時 2021年7月24日(土) 10:00~19:00
- 場所 須山地区研修センター
- 参加者 96人

### 東京2020ライブサイトin御殿場市

- 主催 大会組織委員会、静岡県、御殿場市
- 日時 2021年7月24日(土) 10:00~19:00  
7月25日(日) 12:00~19:00
- 場所 JR御殿場駅前富士山口広場
- 参加者 7月24日 500人・7月25日 300人



## 東京2020大会と静岡県文化プログラムの連携

オリンピック憲章には、「オリンピックは、スポーツを文化、教育と融合させ、生き方の創造を探索するもの」と謳われ、開催国には「文化プログラム」の実施が求められている。東京2020大会においても、2014年秋の全国知事会にて日本全国で「文化プログラム」を展開する方針が採択されたことを受け、2016年5月に静岡県文化プログラム推進委員会が設置された。推進委員会では、「地域とアートが共鳴する」をテーマに掲げ、様々な文化資源を生かした地域の取り組みを促進し、独自の認証制度により、5年余りにわたり延べ1,300件以上の文化プログラムを認証。大会組織委員会と共催した「東京2020 NIPPONフェスティバル共催プログラム」をはじめ、県内各地で文化プログラムを展開し、大会を「文化の祭典」として盛り上げた。

<b>東京2020オリンピック聖火リレー セレブレーション(静岡市)</b> 日時 2021年6月23日(水) 18:35~20:00 会場 駿府城公園紅葉山庭園前広場 出演団体 川根本町伝統文化保存会(川根本町) 内容 赤石太鼓保存会による太鼓演奏(演目:大いなる河の音)	
<b>東京2020ライブサイト(御殿場市)</b> 日時 2021年7月24日(土) 10:00~19:00 会場 JR御殿場駅前富士山口広場 出演団体 シャザリフェスティバル実行委員会(三島市) 内容 三島の伝統芸能「シャザリ」の披露	
<b>東京2020パラリンピック聖火リレー出立式(浜松市)</b> 日時 2021年8月17日(火) 18:30~20:30 会場 四ツ池公園陸上競技場 出演団体 静岡県立横須賀高等学校郷土芸能部(掛川市) 内容 県指定無形民俗文化財「三社祭り獅子」の披露	